健康と信頼をお届けする

日清製粉グループ

NEWS　RELEASE

平成20年10月30日

日清製粉グループ　第2四半期連結累計期間決算、通期連結業績予想

第2四半期累計は売上高2，313億95百万円、経常利益111億87百万円。
通期業績予想は事業を取巻く環境が不透明感を増しており、当初予想通り。

［平成21年3月期第2四半期連結累計期間決算］

株式会社日清製粉グループ本社（社長　村上　一平）の平成２１年３月期第２四半期連結累計期間につきましては、本年４月に輸入小麦の政府売渡価格が平均で３０％引き上げられるなど調達コストの上昇が継続する中、新製品の発売や広告宣伝活動の積極的な推進など主力製品の需要喚起に取り組みました。また、更なる生産性の向上を目指した東灘製粉工場の能力増強工事が本年９月に完了し稼働したのを始め、徹底的なコスト削減に努めてまいりました。しかし、調達コストの大幅な上昇は、内部努力で吸収できるレベルを超えているため、価格改定を実施いたしました。

この結果、第２四半期連結累計期間の業績は、売上高は２，３１３億９５百万円となりました。利益面では、平成１８年度、平成１９年度に調達コストの上昇に対して価格改定が遅れ利益が悪化した食品事業の業績回復により、営業利益は９７億９８百万円、経常利益は１１１億８７百万円と順調に推移しました。四半期純利益は前年の特別利益計上の反動により低調となりました。

［平成21年3月期通期連結業績予想］

第２四半期連結累計期間の業績は順調に推移いたしましたが、本年１０月には輸入小麦の政府売渡価格が一律１０％引き上げられ、また、製粉、食品事業の主力製品において業界全体の出荷が前年を下回る状況となっており、さらには、米国のサブプライムローン問題に端を発した世界的な金融危機や株式市場の低迷など世界経済全体が大変に厳しい様相を呈しております。通期業績予想につきましては、事業を取り巻く環境が先行き不透明感を増していることから、当初予想通りとしております。

当社グループにおきましては、こうした厳しい環境を乗り越えていくために、すべての領域にわたり更にコスト削減を進めていくとともに、販売面においては継続して広告宣伝活動の強化、新製品開発により付加価値製品の出荷伸長に注力してまいります。また、各事業においてコストに見合った適正な販売価格の確保に努めてまいります。更に、海外事業を始めとする成長領域での事業拡大も進めてまいります。

加えて、食の安心・安全への関心が高まっている中、品質保証体制を一層充実させ、環境対応においても本年９月にＩＳＯ１４００１を日清製粉グループとして一括取得するなど環境保全活動に今後とも注力してまいります。

以上により平成２１年３月期の連結業績予想につきましては、当初の予想通り、売上高は４，７５０億円（前期比１１０．０％）、営業利益は１９５億円（前期比１０１．６％）、経常利益は２２２億円（前期比１００．１％）、当期純利益は１２５億円（前期比１１２．１％）としております。

以　上